学び16 ドキュメンタリー

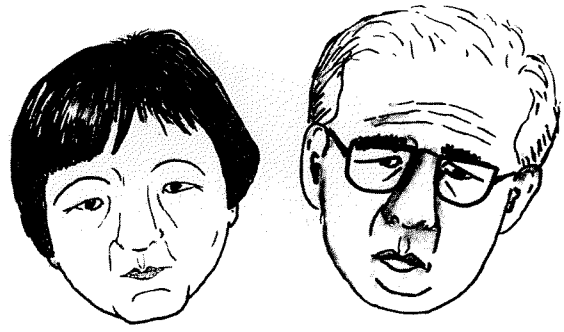
ビデオ視聴　40分　話し合い　20～40分

【学習のねらい】

同和教育ビデオ「ドキュメンタリー　結婚」を見て、部落差別問題の現状について理解を深め、差別と闘う生き方のたくましさに学ぶ。

【準備するもの】

・同和問題啓発ビデオ「ドキュメンタリー結婚」
　（長野県同和教育推進協議会）
・資料「うれしかった招待状ー
　『ドキュメンタリー結婚』その後」
・ワークシート「ちょっと考えてみよう」



【進め方】

（1）ビデオ視聴前の説明（ドキュメントであることなど）
（2）ビデオ「ドキュメンタリー　結婚」視聴。
（3）小グループで感想を発表しあい、記録者が全体の場で報告する。
（4）時間があれば、次の点について意見を交換してみる。
　・美子さんの「今度また生まれ変わって結婚する時もここに嫁ぐ」という言葉の裏に、どのような思いがあるのだろうか。
　・美穂さんの「越えられないですね」という言葉の重みと、「すぱっとうち明けられる人に会えたらいいなー」という思いを、わたしたちはどう受け止めたらよいのだろうか。
（5）資料「うれしかった招待状ー『ドキュメンタリー結婚』その後」を読む。

【留意点】

（1）部落差別をなくすために闘っている、たくましい生き方に学ぶというねらいを確認してビデオの視聴をする。
（2）次のような考え方を持つ人の意見や話し合いの流れについて、十分配慮する。
　・自分は被差別部落に生まれなくてよかった。
　・部落差別が、まだそんなに厳しいんじゃ、結婚なんて考えものだ。
　・同和問題は、オープンにせず、そっとしておく方がよい。等
（3）部落差別を残すことは、差別をしてしまった側の人にも大きな苦しみを残すことに気づき合いたい。そして、結婚における部落差別の問題を自分の問題として考えることができるように意見交換をしたい。

うれしかった招待状－『ドキュメンタリー　結婚』その後

季節が春から初夏に移ろうとしているある日、一通の四角い封筒が届きました。うれしい予感に胸を踊らせて封を切ると、やはり美穂さんからの結婚式の招待状でした。

同和教育ビデオ『ドキュメンタリー　結婚』の中で、長いこと迷い考えた末に、「黙っていたら何も始まらないから」と勇気を持って語ってくれた美穂さん。自分の出身を打ち明けよう、でも、でも、……と悩むうちに消えてしまった淡い恋。心の痛みを静かに、けれど確かな口調で語る美穂さんの姿は多くの人々の心を打ちました。

根強く残る結婚差別の壁。その高く厚い壁の前で年ごろの青年たちの心がどんなに傷つき、痛んでいることか。しかし、美穂さんは言いました。「こんど出会った人には、最初にきっぱりと打ち明けるつもり」と。そのハードルを見事に越えたのです。

『ドキュメンタリー　結婚』は中野市の小林健・美子さん夫妻の結婚までの闘いと、子どもたちに託す思いを描いた作品です。二人の結婚は、美子さんの両親と親戚の猛反対で親子の縁を切っての挙式でした。二人は結婚する時に約束したことがあります。それは生まれてくる子は差別に負けない強い子に育てようということでした。そして最初に生まれた子が美穂さんでした。ドキュメンタリーは主演者が実名で登場します。この作品の重さはここにあります。差別と正面から向き合い、闘ってきた夫妻だからこそ実現できたことです。しかし、それにはどれほどの勇気が必要だったことでしょう。「取材に応じている両親の姿を見ていて、私も話す気持ちになった」とインタビューに応じてくれた美穂さん。しかし美穂さんは当時24歳。これから人生の大切な節目を迎える年ごろです。ビデオの影響がどのようなものか、図り知れぬものがありました。美穂さんのその後がずっと気にかかり、片時も心を離れませんでした。そこに届いたうれしい結婚式の招待状でした。

彼とはどのような話し合いがあったのだろう、差別に負けない子にと願って育てた両親の思いは……。詳しい経緯を聞きたいと思いました。そしてそれを記録にとどめたいと思いました。厚かましくも結婚式の前夜におじゃまして、お話を聞くことができました。

初めての出会いは一昨年のクリスマスの会で、翌年の秋に再会したこと。結婚を前提として交際する前に、出身を打ち明ける決心をしたこと。でも言おうと決めてから１カ月かかったこと。思い切って打ち明けて、返事を待つわずか数秒の時間の長かったこと。彼は美穂さんの思いをしっかり受け止めてくれました。「そんなこと関係ないよ」と言われなかった事で、この人となら共に歩いていけると美穂さんは思ったそうです。結婚すれば「関係ない」ではすまされない重い現実。職場で同和教育を受けてきたという彼の両親も、部落問題をよく理解して結婚に賛成してくれたそうです。「二人が部落問題をわだかまりなく語り合えることが大事。結婚はゴールではなく、スタートなんだよ」－美穂さんに送った両親の言葉でした。翌日、みずみずしい青葉の中でウエディングドレスの花嫁は美しく輝いていました。

［信越放送ディレクター　野沢喜代－1999／7／28同和教育長野］